

あかしん

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

企画・制作：株式会社 新聞ビル

クロスメディアを総合力でプロデュースする

PTC GROUP

半田中央印刷株式会社

〒475-0032 愛知県半田市潮干町1番地の21
TEL 0569-29-2525 (代) FAX 0569-29-4500
<http://www.handa-cp.co.jp>

Nobuo Murakami



撮影・中川真理子

元気のでてくる“ことばたち”

(233)

村上信夫

「ロッセ歌のアルバム」などの番組で司会をしていた玉置宏さんにあこがれていた。高校時代は、「一週間のご無沙汰でした」とよく玉置さんのものまねをしていた。NHKアナウンサーの

でもらえると信じてやってきた。

あるとき、あこがれのビートたけしさんから「おいらがあんたに憧れていたんだ。同じ世代を生きたものとして、誇りに思います」と感激のことばをかけてもらえた。たけしさんは、舞台袖から、ブレイク前のきみまるさんを見て、今日を予見していたのだ。

縁と運と努力

漫談家 綾小路 きみまるさん

北出清五郎さんが東京オリンピックの開会式で、「さあ、日本選手団の登場です!」といった実況中継の真似もしていた。あの声のトーンと言葉が心地よくてゾクゾクした。「ちよつとクサイんだけど、あれがいいんだなあ。私もとってつけたようなクサイしゃべり方をするんですが、昔のアナウンサーの口調が好きなんですよ」。

しゃべることを生業にしたいと思った。舞台の上で何かやりたいと思っていたが、自分に何ができるかはわからなかった。

キャバレーのボーイから、司会をするようになり、森進一さんや小林幸子さんたちの前座を務めながら全国を回るようになった。そのときも、バンドやスタッフの夜の宴会には加わらず、部屋で漫談を書いていた。

いつか、自分の話の面白さをわかってくれる人は必ずいると思っていた。誰も見ていないと思っても誰かが見ていて、いつかわかっ

■村上信夫プロフィール

2001年から11年に渡り、『ラジオビタミン』や『鎌田實いのちの対話』など、NHKラジオの「声」として活躍。現在は、全国を回り「嬉しい言葉の種まき」をしながら、文化放送『日曜はがんばらない』（毎週日曜10:00～）、月刊『清流』連載対談～ときめきトークなどで、新たな境地を開いている。各地で『ことば磨き塾』主宰。1953年、京都生まれ。元NHKエグゼクティブアナウンサー。これまで、『おはよう日本』『ニュース7』『育児カレンダー』などを担当。著書に『嬉しいことばの種まき』『ことばのビタミン』（近代文藝社）『ラジオが好き!』（海竜社）など。趣味、将棋（二段）。
<http://murakaminobuo.com>

『縁と運と努力』でここまできた。困ったときに救ってくれる人がいて、そういう人との縁を大事にしていたら運が生まれた。

だが、生まれたときから運があつたわけではない。

「歌舞伎役者の家に生まれた人は、小さいときから役者の教育を受けて舞台も用意されていますが、私が生まれたのは農家ですしね。田舎を出るときに親父から一万円をもらって、夜行列車で出てきたわけですからスタートラインが違います。人間は平等じゃないと思ったこともありましたよ」。

きみまるさんがそう言うので、ボクは、「自分で選んでそのお父さんのもとに生まれてきたんだと思いますよ。その一万円をくれたお父さんの気持ちが痛いほどわかっていたから覚悟も違った。もらった一万円の価値は、スターの家に生まれた人の価値とは違うでしょう。じやなきや、いまのきみまるさんはいませんよ」と意見してしまつた。

そうしたら「いいことを言いますねえ。あまり泣かせないで（笑）。そうですね。あの当時の一万円は大金でした。私が親父とおふくろの子であるのも動かぬ事実。親父が生きている間に、いまの自分を見せられなかったのが心残りだなあ」と遠くを見る目をした。父は「あきらめずに同じことを続けていれば、きつといいことがある」と、いつも言っていた。

母には「まじめに生きなさい。あいさつしなさい。悪いことはしないで」と言われ続けていた。「そういう親に育てられたので、私は人にだまされることはあつても人をだますことはできないんです（笑）。おふくろは二年前に亡

くなりましたが、私がブレイクした姿を少し見られたのでよかったと思っています」。

日向ぼっこトーク

きみまるさんは、二〇二〇年には一区切りつけようと考え始めた。

70歳の古希なので区切りがいいと思っている。引退ではなく、自分のペースにしていきたい。

「いまは年間一〇〇本くらいの仕事をしていますが、自分のペースじゃないなと思うところもあるんですよ。でも私が売れている間に、低迷するショービジネスの業界に少しでも恩返しできればと思ってやっています。私たちの仕事は呼ばれてナンボの世界ですから、お客さまに求められるうちはいまのままでと思っています」。

だが、いずれは、マシガントークではなく、穏やかに気の利いた話をゆっくり出来たらいいと、きみまるさんは思っている。

縁側で日向ぼっこをしているようなライブ。いいなあ。聞きに行きたいなあ。



好評
発売中

■イネ・セイミプロフィール

フルート奏者として活躍中。俳優家。絵画を幼少より日展画家の（故）川村行雄氏に師事。俳優を華道彩生会家元（故）村松一平氏に師事。俳優の描法をもとに、少女、猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。



俳優教室開講中

ところ 常滑屋
とき 俳優教室月二回 午後一時三十分～三時三十分
会費 一回、一、二五〇円（三ヶ月分前納制）
問合せ ☎〇五六九（三三）〇四七〇

インディアンフルーティ教室開講しています

誰でも簡単に音が出せる楽器です。あなたも今日からミュージシャン

会場 マツイン楽器店
ミュージックガーデン武豊
隔週木曜日（月2回）
10:00～11:00
形態 グループ
会費 1ヶ月8,802円（入会金5,400円）
詳しくはマツイン楽器店本社 教室係まで
フリーダイヤル:0120-37-5576

講師 イネ・セイミ
（日本インディアンフルートサークル協会ディレクター）
ネイティブアメリカンのスピリットが感じられる
インディアンフルート。その音色はやさしく心に響きます。
1レッスン・30分4,000円 会場・半田市柳ヶ丘
申込み 0569-89-7127
お問合せ ine.seimi.jp@gmail.com

俳画／イネ・セイミ



私の出会った作品 (21)

杉本武之

（三）小津安二郎
『秋刀魚の味』
◎小津監督の映画との出会
初めて観た小津安二郎の映画は何だったのか。思い出そうとしても、はつきりしません。『麦秋』（昭和26年）だったような気がします。そうだとすると、12歳の小学6年生の時のことになります。私は、中学生になり、少し物心がつくと、映画に熱中し始めました。『東京物語』（昭和28年）は2年生の時に観ました。

私の中学時代は日本映画の黄金時代と重なっていました。映画少年だった私は、黒澤明の『生きる』『七人の侍』、溝口健二の『雨月物語』『近松物語』、今井正の『山びこ学校』『にぎりえ』、木下恵介の『日本の悲劇』『二十四の瞳』、新藤兼人の『原爆の子』、成瀬巳喜男の『おあさん』などを夢中で観ました。そして、将来は映画監督になることを夢見ていました。何と幸せな中学時代だったことでしょう！



『秋刀魚の味』

の10年間、小津は松阪を中心に暮らしました。大正5年、県立第四中学校に入学すると、彼は映画にのめり込みます。「伊勢の松阪で少年時代を送り、活動（映画）

中学の卒業が近づき、彼は、兄が進学した神戸高等商業学校（現・神戸大学）を受験しますが、意図的に落第。「そんな所へ入っちゃったら、映

を見るのが病みつきになってた。しまいには学校から禁止されている映画に行くことが、映画そのものを見ること以上にスリルを感じさせて、よけい楽しみになってし

づるで入ったのです。小津安二郎の魅力は、実生活においても、作品においても見られる端正な男らしさにあります。どこまでも自分を信じて、時の流れに押し流されない強靱な精神です。彼はこう述べています。「ぼくの生活信条として、何でもないことは流行に従う。重要なことは道徳に従う。芸術のことは自分に従う」

◎『秋刀魚の味』
小津安二郎の遺作は『秋刀魚の味』（昭和37年）です。その前の作品は『小早川家の秋』（昭和36年）で、その前の作品は『秋日和』（昭和35年）です。小津は最晩年の3本の作品名に、それぞれ「秋」

の一字を入れました。『秋刀魚の味』には秋刀魚が出てくる場面はありません。また、作品から感じ取れる味も、秋刀魚の味と正反対です。生臭さの無い、すっきりとした白身の魚の味がする作品です。『秋刀魚の味』は、初老の父親（笠智衆）と、結婚して家を出て行く娘（岩下志麻）との別離を描いています。父と娘だけに焦点を当てずに、独立した長男夫婦（佐田啓二・岡田茉莉子）と大学生の次男（三上真一郎、バー「かおる」の亡妻に似たマダム（岸田今日子）、ラーメン店を開いている恩師（東野英治郎）とその未婚の娘（杉村春子）などが次々に登場して来て、この作品の幅を豊かに広げています。

『晩春』は、父と娘の心理的葛藤の描き方が執拗すぎて、観ていると、だんだん息苦しくなってきます。一方、『秋刀魚の味』は、深刻さがあまり無く、物語全体があっさりとして描かれており、画面の色彩も

鮮やかで、深みという点では『晩春』に劣ります。が、生きる喜びと悲しみ、人生の明るい面と暗い面が、ユーモアを交えて巧みに描かれています。また、表面的な笑いの裏には「人間は結局ひとりぼっち」という孤独感や寂寥感が色濃く漂っていて、時には胸が締め付けられる思いがします。

野田高梧と共作のシナリオを読んでみましょう。淡々とした文章が続きます。冒頭の場面）
1 川崎の工場地帯
その風景二、三――。
2 或る工場の事務所
その外景――。
3 その一室
デスクが二つ――その一つで監査役の平山周平（57）が老眼鏡をかけて書類を点検しているが、そう忙しそうでもない。ノックの音――。（後略）

和夫「どうしたんだい――お父さん――」
平山（幸一に）「ヤア、来てたのか……」
幸一「ええ――お疲れでしょう」（中略）
97 二階の廊下
暗い……。
98 二階の部屋
こも暗く、その暗い中に姿見の鈍い光が浮かんでいる。（終）
シナリオはここで終わっていますが、完成した映画では、その後、父親の周平が台所に行き、冷たい水を飲み、椅子に腰掛けず。
寂しげな周平の姿を映した後に「終」。

〈杉本武之プロフィール〉
1939年 碧南市に生まれる。
京都大学文学部卒業。翻訳業を経て、小学校教師になるために愛知教育大学に入学。25年間、西尾市の小中学校に勤務。定年退職後、名古屋大学教育学部の大学院で学ぶ。〈趣味〉読書と競馬

誠意をこめて安心のお手伝い
年中無休・24時間体制

★(有)大阪屋葬祭

常滑ホール 鬼崎ホール 阿久比ホール

TEL<0569>35-4949 (代表)

FAX 35-4911

知多の新鮮たまご
発酵ケイフン

知多エッグ

知多郡武豊二ツ峯380
TEL0569-73-6341



文集「なかよし（自由研究・学級通信）」
表紙絵（4年障害リレー（3月15日））

この指とまれ (264) 氏原朝信
昭和52年度 四年三組の学級通信「なかよし」
学級通信「なかよし」最終号No.26（3月22日）・60頁と班別の自由研究・28頁を載せた文集「なかよし」が3月24日付けで出来上がっています。23日から文集作りが始まったのだろうと振り返ってみただけ、残念ながら記憶にないのです。きつと印刷所での下校経験で難なく製本をし、修了式（24日）に渡せたのではないだろうかと思えます。それこそ突貫工事もいいとこだったようです。

班別の自由研究
*班員名は「この指とまれ（二六）」を参照
焼きがまのうつりかわり P2
宇宙戦艦ヤマト（6名）
協力者：陶芸研究所
コカ・コーラについて P2
アップルちゃん（5名）
協力者：中京コカ・コーラ（寺島さん）
クリンカータイルの P4
できるまで
ドッコちゃん（6名）
協力者：田中製陶所
常滑の方言 P4
マジックバンド（5名）
協力者：うちの父母
やおやさんは一時間に P4
何人来るか

店に来る人数調べ P4
キャンディキャンディ（6名）
調べた店：かい元屋、
スワン、りせんどろ、
栄屋、三浦屋、丸愛
電気店、八百屋
日本・世界の人口 P4
カウンタック（5名）
協力者：図書館

料理研究家 長澤晶子のSPEED★COOKING!

簡単 うぐいす餅

春の和菓子を手作りしてみよう！
ホワイトデーにもオススメです♡

材料 (12個分)
①白玉粉…50g
②水…100g
③砂糖…100g
④きなこ…適宜（ふるっておく）
⑤抹茶…少々
⑥こしあんor粒あん…300g
（12等分し丸めておく）

作り方
①耐熱容器に①を入れ②を少しずつ加え溶き混ぜる。
②①を入れたままにならない様に混ぜる。
③①にラップをして電子レンジで1分加熱。
ヤケドに注意してラップをはずしてよく混ぜる。
再びラップをし1～2分加熱してラップをはずしよく混ぜる。←これを2～3回くり返す。
④②に粘りとこしができたら⑤をたっぷり敷いたバッドに流し出す。
⑤③の熱が少し取れたら正方形になる様12等分に包丁で切る。
⑥④の上になる方の⑥をハケなどで払い落とし、⑥をのせ俵型に包む。
とじ目を下にして両端を指でつまんでうぐいすに見立て⑥を茶こしてふる。

◎常滑市民文化会館
ホール
▼常滑市伝統芸能離子発表会 四日(日) 開場 午後0時半 開演 午後一時(同五時) 入場無料
▼常滑市伝統芸能離子発表会 実行委員会 34-5200(八木)
▼きかんしゃトーマス ファミリーミュージカル ソドー島のたからもの十日(日) 一回目：開場 午前十一時 開演 午前十一時半(午後0時半) 二回目：開場 午後二時 開演 午後二時半(同三時半) 入場料 二千八百円 問合せ 常滑市民文化会館 35-3111
▼徘徊マリン87才の夏上映会 十一(日) 開場 午後一時 開演 午後一時半(午後三時半) 入場無料 問合せ 高齡介護課 47-6163
▼Family Kids Dance 13th The

Party・二十一(水・祝) 開場 午後一時半 開演 午後二時(同四時) 入場無料(整理券有り) 問合せ ファミリーキッズダンス 090-4084-8494(山本)
▼常滑高校吹奏楽部 第三回定期演奏会 二十四(土) 開場 午後五時半 開演 午後六時(同七時半) 入場無料 問合せ 愛知県立常滑高等学校 43-1151(高木)
▼ミュージック常滑 ピアノ発表会 二十五(日) 開場 午後一時 開演 午後二時十分(同四時) 入場無料 問合せ ミュージック常滑 080-03611-5481(水野)
◎常滑市民文化会館 展示室
あなたのギャラリー
▼水彩画展示 一日(日) 午前九時～午後九時 ※最終日は午後五時まで あなたのギャラリー 問合せ 中会会 34-3197(永田)
▼明墨会作品展 三日(土)～十三日(火) 午前九時～午後九時 ※最終

日は午後四時まで あなたのギャラリー 問合せ 明墨会 42-5080(佐野)
▼第三十二回子ども美術展 十五日(土)～二十五(日) 午前九時～午後三時 ※最終日は午後三時 問合せ 常滑市民文化協会 35-2920
▼常滑地区伝統文化いけばな親子教室 十七(日) 午前九時半～同十一時 第一展示室 問合せ 常滑地区伝統文化いけばな親子教室 052-32118985伊藤
▼水谷正展 二十日(火)～二十五(日) 午前九時～午後五時 ※最終日は午後四時半まで 第二展示室 問合せ 水谷正 43-0614
◎常滑市立図書館
▼神明書道会展(書) 三日(土)
▼虹彩会油絵展(油彩画) 三日(土)～十四(日)
▼常滑高等学校教職員展(絵画 陶芸 クラフト 書 等) 十五日(木)～二十三日(金)
▼常滑水彩画会展(水彩画) 二十三日(金)
(5ページへ続く)

新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』 就職

— 自分ドラマつくろう — (83) 岡田 清治

姪の就職2

「高度な技術を要する腹腔鏡手術で指導医を目指すというのは、この女医は相当な技量の持ち主だと改めて思ったのです。それでビデオ撮影を了承しました」

「なるほど、逆に信用できますね。それで手術はどうでしたか」

―入院の記録を見ると、
3月13日11時に入院。

体重68kg②右手圧力65歳級と測定された。術後の食事の説明もあった。この日、入浴、保湿液を体に塗る。

3月14日

朝、足と体にクリーム塗る。

10時主治医が女房・るり子に説明。

3月15日

21時、翌日の手術に備えて下剤のみ、絶食。

3月16日

朝シャワー浴びる、アイソカル・イルジネードウォーター（日本ネッスル）2本飲む、7時浣腸、大便多く出る。

8時手術室に着。るり子は手術の時間は約3時間と聞いていたが、6時間経っても部屋に戻ってこないで、「もしかしたら」と心配が頭をよぎった。

3月17日

酸素マスク取り、体温38℃、廊下100mの距離を自力で2周歩いた。

3月18日

体温37℃、気力がないが、4周歩く。痛み止めの点滴。

3月19日

体温35・6℃、6周歩く。ただ咳をすると痛むが、痛みほぼなくなる。院長回診、尿の管はずす。るり子がタオル大2、サロンプラス、水（ペットボトル）、パジャマ、ズボン、パンツ持参。

3月20日

体温36・4℃、頭髮洗いを拭く。食事開始、朝食、昼食順調。その後洗濯、12周歩く。腹帯、シャンプー購入。

3月21日

体温平熱に戻る。12時〜14時、1分置きに下痢。整腸剤をもらった。その後若干、黒いが通常の便にもどったので飲まない。るり子が髭剃り用カミソリ、体温計を持参。

3月21日

体温36℃、午後2時軟便、朝夕15周歩く、下腹部の手術時の内出血が溜まる。

荷物は持つて痛くなかったら帰宅が可。

3月22日

体温36℃、11周歩く。14時カンファレンスルームへ、その後風呂。

3月23日

朝6時新聞購入、歩行10周。下部痛むが、数分後直る、癒着は起こる可能性はつきまとうが、①絶

食で自然治癒②治らないと、医師に相談とのこと。
昼体温36・5℃。

3月24日

朝6時採血、新聞購入、帰宅準備、8時食事、8時30分回診・手術結果聞く

9時〜11時息子にメール、帰宅の途につく。

「裕美さん、ざっとした経緯です。一番の心配は腸



【写真】舞も花を見て慰められているのだろ(著者撮影)

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を左記のFAXかメールでお寄せください。
今回は「就職」「日本のゆくえ」「結婚」「夫婦」「インド」「愛知県」についてです。物語が進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。
FAX：0569-34-7971
メール：takamisuu@akai-shinbunten.net



■プロフィール

著者：岡田清治おかだせいじ

一九四二年生まれ ジャーナリスト
（編集プロダクションNEXT108代表
著書に『高野山開創二百年 いっ
ぱんさん行状記』『心の遺言』あな
たは社員の全能力を引き出せま
すか！『リヨンで見た虹』など多数

の癒着でしたが、術後2年ほど経ちますが、いまのところ起っていません」

「胃の全摘でも食事はとくに心配はありませんのですか」

「当初は蕎麦を食べたときに戻しましたが、それもゆつくり噛みながら食べると、心配はありません。男は、とくに私は早食いの癖がありますので、ゆつくり食べるのが苦痛です。だからなるべくうどんの太麺をいただくようにしています。

それとビールが飲めないのが残念です。とくに夏場は飲みたくなりますが、がまんしています」

「ビールを飲むとどうなるのですか」

「ビールは炭酸ガスを含んでいますので腸内で膨張します。だから一口飲んだら受け付けないか、戻してしまいます」

「そうですね。不自由でしょうが、そのほかのことはできるのですから良かったですね」

「そうです。いまでは女医さんに感謝しています。いまは3ヶ月ごとに近くの消化器内科のクリニックと病院で5年間は検査をうけることになっています。クリニックでは血液検査で転移等を調べ、病院では血液検査のほかにCT検査を受けます」

「いずれにしてもお元気で安心しました」

「ありがとうございます。舞さんの結婚式に出るまでは頑張っていきたいと思っています」

「ありがとうございます」

「長くなりましたが、そろそろここを出しましょうか」

「はい。これからどちらへ行かれますか」

「夕方、栄町の方で知人と会う約束をしています。名古屋まで一緒にしましょうか」

「はい。私は名古屋の百貨店で買い物して帰ります」

二人はそろって空港駅に向かった。
幸い電車は空いていたので、二人は並んで腰をおろした。

「舞さんは将来、何になりたいか、インドに行く前に話しましたか」

「いいえ。私も就職に失敗した後だったので、深くは聞いていません。まあ、休息の旅になればいいのではと、思っています」

「恐らくいまも舞さんは悩んでいるでしょう。先輩や現地の人たちと会って、話をする中で目指すものが見えてくるのではないかと思います」

「そうだといいのですが…」

「健太郎ならどう言うだろうか、時々考えます」

「そうですね。生前にそういうことを聞いたこともありませんが、彼の性格からして本人の思うようにやらしたらいけないと言ってしまうね」

「やがて二人は黙して語らず軽く目を閉じて電車の走る音に身をゆだねながらそれぞれ思いを巡らしていた。

「真三は舞のことも気がかりだったが、裕美さんはまだ若いのにこのまま再婚もしないで未亡人で過ごすのかと想像していた。それとも舞が結婚したら自

分の新しい人生を切り開くのだろうか。真三にはわからなかったし、一度聞いたことがあったが、健太郎の残影があったためか、明確には答えなかった。もし再婚すれば善家とは疎遠になるだろうと思ったりはする。その時、舞はどうするだろうか。母親と決別するようなことになりはしないのか。まして裕美さんに子供が生まれたらどうなるのか。考えれば考えるほどわからなくなる。

そうこうするうちに真三は軽い眠りについた。

終点の名古屋駅で「本日はお付き合いただきありがとうございました。さようなら」

裕美は真三に挨拶して別れた。

真三も軽く頭を下げ、反対方向に歩いた。しばらくして携帯で「かつぱの女将」に電話した。

「真三ですが、女将さん？ごぶさたしています」

「前島さんは先ほど来られました。いまだこちらにおられるのですか」

「名古屋駅です。30分ほどで着くようにします。前島さんによろしくお伝えください」

「はい。お氣をつけてね」

「ありがとうございます」

真三はそう言って携帯をきり、近くの和菓子屋によって、女将への土産を買い、栄町の店に行くため地下鉄の駅に急ぎ足で向かった。

店の暖簾をくぐって扉を開けると、なつかしい前島の顔が目に入った。カウンターの向こうから女将が「いらつしやい」と明るい声で真三を迎えた。

「前島さん久しぶりですね。お変わりありませんか」

「はい。ありがとうございます。真三さんもお元氣そうですね」

「そうですね。なんとか生きていますよなものです」

そうすると、女将さんが「真三さんは本当にしばらくぶりなんです。体調でも壊されたのかと案じていたのですよ」

「そうだな、本当にしばらくぶりだな。めっきり酒に弱くなったことも事実ですがね…。これお土産です」

「まあ、うれしいわ」

真三はがんのことは黙っていることにした。これから一献かわすという時に病氣のことを話題にするほど無粋なことはないと思ったからだ。ただ、成行き次第で話す機会があれば報告しておこうと考えた。

「真三さん、何を飲まれますか」

前島はビールを飲んでいたら、真三は一瞬、戸惑いながら「純米吟醸の冷酒ありますか」とたずねた。

「東北の冷酒が入っていますよ」

「そうですね。では新潟の冷酒一合とさ湯一杯、頼むよ」

「今日は空港からですか」

事情を詳しく聞いていない前島が真三にたずねた。

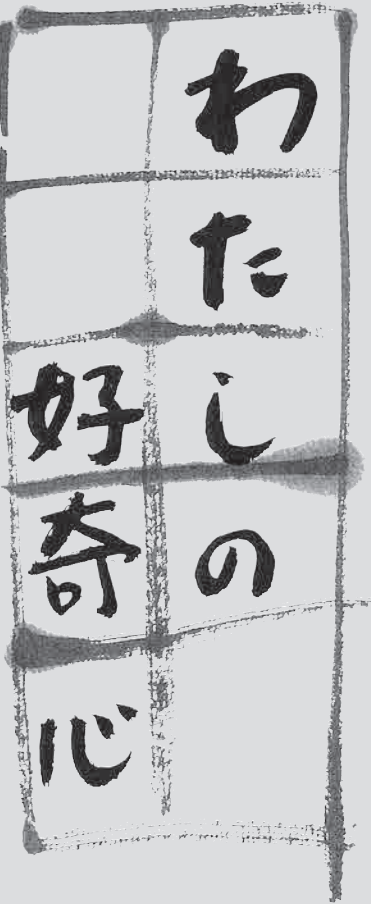
「さきほど、名古屋駅に着いたところです」



絵手紙と油彩の他にフレスコ画も。

造形大の講堂で「フレスコ画技法」を学びました。十四、十六世紀のイタリアで花崗石、ミケランジェロや、ラファエロなど、ルネサンスの芸術家が用いました。漆喰をベースにした絵画技法で壁に漆喰を塗り、乾き切らない内に水溶性の顔料で描き、乾くと顔料が固まって定着します。作品制作は四号規模の蒸壁。ハネルは、私は紅型染の椿を描きました。粘土瓦の素焼板に、漆喰を塗りフレスコ画を描けたら最高です。どうしてもこの技法とものにしたい、と思いました。

絵手紙 第二集



絵文 榎山 善久

返文 小林 玲子

榎山 善久

昭和十一年碧南市で生まれる。
丸栄陶業株式会社代表取締役。
碧南商工会議所会頭。
愛知県陶器瓦工業組合理事長。
全国陶器瓦工業組合連合会理事長などを歴任。
平成十三年藍綬褒章受賞。
平成二十二年旭日小授章受賞。
丸栄陶業株式会社取締役会長を経て相談役に。
京都造形芸術大学・通信教育部芸術学部美術科・洋画コース大学院修士課程修了。
平成二十九年六月碧南市藤井達吉現代美術館にて初の作品展開催。社名を栄四郎瓦株式会社に変更。独立美術展 入選。

小林 玲子

碧南市に育つ。
西尾市在住
共著「西尾の民話」
童話「サケの子ピッチ」
随筆「海辺のそよ風」
(中経コラム「閑人帳」より)
ミュージカル脚本
「みぐりちゃんのおうち」
童話集
「タアタとバアバのたんけんたい」

紅型の色彩の美しい御絵手紙拝受致しました。
ありがとうございます。
庭に様々な椿が今を盛りと咲いておりますが、華やかさと
気品を感じる花ですね。
葉の艶も美しいです。日本の原産というものも嬉しいこと
でございます。
フレスコ画法を初めて知りましたが、モルタルの乾かぬう
ちに描くとのこと。
かのバチカンのシステイナ礼拝堂の、ミケランジェロの絵
や、フィレンツェのサンマルコ大聖堂にありますフラ・ア
ンジェリコの名作が、そのような、苦勞の多い画法である
とは本当に驚きです。
苦心のお作も早く拝見致したく存じます。
ご健勝にてご活躍下さいませ

敬具

わが家のニューフェイス



鈴木湊斗(2才) 美浜町

写真・文	家族が増えるといいな。	れど、早く僕の弟や妹ができて、	いな。毎日ママと一緒に楽し	あまり会えないので、ちよと淋し	東京に住んでいるよ。ジジババと	るからかなあ。パパの転勤で今は	だ。それはママがカッとしてくれ	いつも女の子に間違われちゃうん	い	マと散歩に出ると、マ	2才になったよ。マ	す。去年の12月で	こんにちは。湊斗で
鈴木望													



愛とMy Family



中川アン(1才5ヶ月) スミレ(7才) リカコ(4才) 常滑市かじま台

写真・文	おもしろから	くると、リズムに合せて、つい	二のお姉ちゃん達が大好きな、	ミラクルちゃんずがはじまると	お姉ちゃん達を押しのけて、テレ	ビの前ではりきって踊ってます。	中川	千聡	子、	「アン」です。	中川家の三姉妹の末
中川											



人と人をつなぐ
『かけ橋』になりたい



タオル・繊維商品及び輸入雑貨等総合卸

名城商事株式会社

愛知県名古屋市中川区乗越町1丁目37-3
TEL <052>362-1531(代)

「中日春秋」で
学力アップ!?
人間力もアップ!?

「中日春秋」を書き写す
これだけで全教科の学力アップの土台となります

「中日春秋」の書き写しは
学力アップ・人間力アップの第一歩です。

総合的学力 …すべての教材の学力アップの土台に!

応用的学力 …問題を正確に把握する力・解答の解説を
適切に読み込む力

基礎的学力 …読解力・語彙力・集中力・注意力アップ

日常的習慣 …「中日春秋」書き写し
よむだけでも○!書き写せば◎!

人間力
アップ!!

中日春秋書き写しに
チャレンジしよう!

1冊(1ヶ月分)

100円(税別)

中日春秋書き写し
専用ノートのお求めは
あかい新聞店まで

武豊店 ☎ 72-0356
常滑店 ☎ 35-2861

美味しくて新鮮な地元、知多半島の生鮮食品や、自然の恵み
いっぱいの、からだに優しい食材がおすすめです!

イシハラフード



常滑店
TEL 0569-35-5355

通常営業時間 AM9:30~PM9:00



ジェム電子水を使った手作りパン&クッキーの店

パン工房パンピアン